

# KG JOURNAL

関西学院通信 [関学ジャーナル]

SEPTEMBER  
2021 SUMMER-AUTUMN  
No.272



関西学院大学

## 大学スポーツの新たな挑戦 主役は全ての関学生!



## 学長のポケット

学長・村田 治



## 大学スポーツの新たな地平に向かって

**本**年4月に、関西学院大学競技スポーツ局(Kwansei Gakuin University Athletic Department: 以下KGAD)が発足しました。KGADは正課外教育という大学教育を担う部局として大学組織の中に位置付けられています。これには根本的な理由があります。

スポーツですので勝負にこだわるのは当然必要です。勝つためには、対戦相手の分析も必要になってきます。身体や技を鍛えるための練習と同時に、対戦相手や試合の戦略に関する分析力、さらにはその基礎となる「論理的な思考力」が必要です。チーム全員が一つの目標に向かって身体、頭脳、精神を総動員することが求められるのではないのでしょうか。このように考えると、スポーツを通して、身体能力だけでなくさまざまな能力・資質(コンピテンシー)が養われていくことが分かります。

関西学院大学では10項目のKwanseiコンピテンシーを定めています。その中で、「困難を乗り越える粘り強さ」は当然のことながら、「主体的に行動する力」「豊かな人間関係を築く力」「論理的な思考力」なども体育会での活動の中で養われると考えられます。また、正々堂々と勝負することは「誠実さと品位」を醸成するのではないのでしょうか。

これからのDX(デジタルトランスフォーメーション)時代だからこそ、知識だけでなく、人間しか持ち得ない普遍的なコンピテンシーが必要となってきます。現在、わが国においては、大学スポーツの新しい在り方が求められています。KGADがその先駆けとなって新しい地平を切り開いていくことを心から期待したいと思います。

- 1 学長のポケット
- 2 特集 世界市民を育む、学びがある。  
大学スポーツの新たな挑戦  
主役は全ての関学生!
- 11 ひとひと  
黒原 拓未さん(社会学部4年生)  
鷹嶋 純一郎さん(人間福祉学部4年生)
- 13 Research & Research  
人間福祉学部 林 直也 教授
- 15 #新生KSC  
再編を記念し  
スペシャルゲストと共に  
分野横断の学びに触れる
- 17 Moment
- 19 TALK DEEP  
～スポーツの現在と未来～
- 25 KG CLUB  
体育会 サッカー部
- 27 学院通信  
関学カプセル  
KGグルメ
- 31 数字でみる関学  
学生生活の実態と満足度
- 32 世界の街角から  
カナダ 山岸 明生さん
- 33 Libraring  
各キャンパスの図書館の  
特集コーナー・展示企画を見よう!
- 34 聖書に聞く  
院長 舟木 譲

新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた上で、取材・撮影しています。

# MASTERS FOR SE

「奉仕のための練達」を体現する  
関学スポーツ

KGAD  
始動!

## 大学スポーツの新たな挑戦 主役は全ての関学生!

関西学院大学は2021年4月、体育会活動を正課外教育と位置付け、  
その活動を支援する競技スポーツ局(KGAD/Kwansei Gakuin University Athletic Department)を創設しました。  
“Student-Athlete”を原則に、大学の教育プログラムとしてスポーツ活動の発展・振興を目指すとともに、  
スポーツを介した地域とのコミュニティづくりに取り組みます。  
大学スポーツにおける新たなチャレンジの意義やスポーツの魅力・可能性などを、  
KGAD局長の富田宏治・法学部教授へのインタビューや加盟団体の学生等の声を通して紹介します。

# KGAD創設までのTOPICS

学業との両立、地域社会への貢献など、KGAD設立の趣旨は今春の始動に先行する形で制度やプログラムに反映されてきました。KGADスタートまでのトピックスを紹介します。



## KGAD創設(2021年4月1日)

体育会活動を正課外教育と位置付け、その活動を支援するためにKGADを創設。4月21日、西宮上ヶ原キャンパスの関西学院会館で記者会見を行いました。会見には、この日までに加盟が承認された8競技10チームの学生も参加しました。



## 学業サポートを実施

Academic Eligibility for KG athletesの実施に伴い、体育会の学生の修学支援を行うために体育会学生本部主導でサポートメンバーを募集。本部の学生や体育会の学生有志が2019年度に数回、勉強会を開きました。



※2019年度、2020年度は新型コロナウイルス感染症のため中止。

## スポーツ×海外×英語 「English through Sports」 をスタート(2019年3月)

スポーツを切り口に英語と世界に触れる留学プログラムで、オーストラリアのニューサウスウェールズ大学、スーパーラグビーの強豪チームとのコラボレーションにより実現。英語集中学習に加え、海外プロスポーツチームから得られるスポーツ体験と知識でスポーツ観を変えることも目的です。初年度はラグビー部や硬式野球部などから13人が参加しました。



## 監督者任命式を実施(2021年6月1日)

KGAD加盟団体9競技11チームのうち、アイスホッケー、アメリカンフットボール、庭球部男子、同部女子などの監督8人が出席。村田学長は「監督者の皆さんにはKGADの最前線として、学生が自ら考え成長するための協力とサポートをお願いしたい」と激励しました。



※2021年9月1日現在、KGADには13競技17チームが加盟しています。

## 体育会による社会貢献活動を実施(2019年7月)

体育会学生本部長6人が「甲南こども園」を訪れました。プレイルームでの合唱や遊びに始まり、屋上庭園ではプール前の準備体操を指導し、その後は教室で園児たちを膝に座らせたり背中におぶったりしながら絵本を読み聞かせ。子どもたちの笑顔に囲まれました。



## Academic Eligibility for KG athletes (関西学院大学体育会員に関する対外試合出場のための資格制度)を制定(2019年4月)

関西学院大学体育会に所属する学生が学業の重要性を認識し、スポーツ活動との両立を果たすことによって、大学の理念と目標に沿った人材育成を実現するとともに、学生が体育会のモットー“NOBLE STUBBORNNESS”を自ら体現するために制定。一定数の単位修得を試合・大会出場の条件とし、満たない場合は修学支援プログラムの受講が求められます。



# 教育的価値の高いプログラムの下 「粘り強さ」と「品位」を併せ持つ 文武両道のアスリートを育てる

## KGAD創設の経緯を 教えてください。

関西学院では2018年、創立150周年を見据えて超長期ビジョンと長期戦略から成る「Kwansei Grand Challenge 2039」を策定しました。その過程で、これまで課外活動と位置付けていた体育会活動を正課外教育に切り替えていくことになりました。教室での授業も、グラウンド等での体育会の活動も、共に教育だという考え方です。では、教育の一環としてのスポーツ活動をどのような体制で、どのように実現していくのか。学生スポーツ活動を統括する大学直轄組織としてKGADが創設されました。

## 学生スポーツ活動を 教育と位置付けた理由は。

全ての学生に身に付けてほしい10の知識・能力・資質を「Kwanseiコンピテンシー」として定めています。そのうちの「困難を乗り越える粘り強さ」「誠実さと品位」は、関西学院大学体育会が100年近くモットーとしてきた。NOBLE

STUBBORNNESSの精神です。「高貴な粘り」「品位ある不屈の精神」とも訳されます。それを体得する場である学生スポーツの活動は、まさに正課外の教育といえます。

## 正課外教育を実現するために 取り組むことは。

クラブ活動自体のプログラム化です。自ら目標を掲げて指導者や仲間と練達する過程でチームワークやリーダーシップ、問題発見・解決能力等を獲得する教育的価値の高いプログラムとして再構築します。まずは、学生の主体的な取り組みを尊重しつつ、「学業との両立」「安全性・健全性の向上」を確立する組織づくりを最初のミッションに掲げています。学業については、一定の水準を満たさなければ試合大会への出場を認めない旨を制度化。また、指導者には安全性やコーチングマナジメント等の研修を行います。

## 他に特筆すべき 取り組みはありますか。

学生の主体的な力を活用して、トレー

ナーや分析担当スタッフ、学業をサポートするチューターなど、学生スポーツを支える多様なスタッフチームを組織化・共有化し、加盟団体にはそのリソースを活用してさらに強くなってもらいます。フィールドで活躍するだけがスポーツに参加する方法ではありません。学生時代にスタッフとして競技者を支えることで、キャリアアップできるのではないのでしょうか。

## 地域社会とつながるために 必要なことは何でしょうか。

地域に愛される大学スポーツの実現には、地域貢献活動が不可欠です。KGADの活動を試合で勝つことに限定せず、みんなが力を合わせてやれる取り組みを増やせば地域にファンが増え、その応援が学生たちの活力となります。そういう循環を生み出し、大学と地域との新たなコミュニティづくりにつなげます。

## 企業との連携で 考えていることはありますか。

学生スポーツ活動を通じて「Kwanseiコンピテンシー」を身に付け、企業で貢献で

KGADには2021年9月1日現在、13競技17チームが加盟しています。富田局長に設立に至る経緯や取り組み内容、将来展望などを伺いました。

きる能力の高い人材を育てるというKGADの活動に共感し、支援いただくような関係性ができればと思っています。また、「学業との両立」のためには、練習に合理性が必要です。スポーツサイエンスの知見をもって支援、あるいは協業してくださる企業も大歓迎です。関学にもスポーツ科学分野の研究者がいますので、学内の資源も大いに活用しながら取り組みが広がっていくべきですね。

## 10年後、20年後のビジョンを 教えてください。

大学の使命は人を育て、世に送り出すこと。KGADの科学的で合理的な環境の下で4年間、プレーヤーやスタッフとして品位を持って粘り強く頑張り、その実経験を持って毎年600〜700人が社会に出て行きます。自らの経験を、指導者となって教育やクラブの現場で再生産するサイクルが循環し始めれば、関学のスポーツの在り方が変わり、大学スポーツひいては日本全体のスポーツの在り方が変わっていくことになるのではと夢を抱いています。

監督



アメリカンフットボール部・監督  
大村 和輝さん

## 部活動は人間教育の場 苦境でも頑張れる人間を育てます

以

前、アメリカのプリンス  
トン大学と試合をした

とで、苦しい局面でも踏ん張れ  
る人間が育つと考えています。

際に、世界でもトップクラスの同  
校では午後の授業の合間に2時  
間ほど、課外活動のためだけの  
時間を設けていると聞き、大学  
がそこまでスポーツの教育的価  
値を認めているのかと驚きまし  
た。われわれも「授業が最優先  
で、部活動は後回し」という従来  
の考え方から、部活動を教育的  
新たな位置付けで考えられない  
かと大学へ働き掛けていたので、  
KGADの設立は大変うれしく  
思います。

アメリカンフットボール部で  
はもともと部活動を「競技を通  
じた人間教  
育の場」と  
捉えてきま  
した。学生  
自身に目標  
を設定させ、  
自分の言葉  
と結果に責  
任を持って  
取り組むこ

今後、他部の指導者の方々と  
指導の考え方や学生との関わり  
方などを共有し、お互いの良い  
ところを取り入れていければと  
思います。

学生



学生の主体性を重視した指導を心掛ける

KGAD加盟を機にさらなる進化を

主将



女子ラクロス部・主将  
山之内 風香さん  
(教育学部4年生)

## 自立した人間が集まる組織へ 襟を正し成長を続けます

女

子ラクロス部は、ス  
クールモットーである

に女子ラクロス部のやり方も伝  
え、協力できることは惜しみな  
くやっていきたい。しっかりと連  
携して、加盟団体全体で成長し  
ていければと考えています。

「Mastery for Service」と体  
育会モットーである「NOBLE  
STUBBORNNESS(高貴な粘  
り)」を、ラクロスを通して体现  
し、自立した人間になることを  
目標としています。自立した人  
間とは、思うような結果が出な  
かったときに誰かのせいになら  
ないなど、主体者意識を持って物  
事に取り組める人です。

私自身、もともとは自信がな  
く、前に出てみんなを引っ  
張るような人間ではあり  
ませんでした。でも、競技  
力と人間力の成長に向け  
本気で頑張る先輩たちと  
過ごすうちに触発され、主  
将にも立候補。自分を変え  
ることができました。

今回のKGAD加盟を  
契機に改めて襟を正し、自  
立した人間が集まる組織  
になれるよう励みます。他  
部の考え方や方策の良い  
部分は取り入れることも



ポジションはディフェンス。守備の要を担う(中央が山之内さん)

主務

## 大学への帰属意識を持ち 愛されるチームを目指します



ラグビー部・主務  
黒石 ほのかさん  
(商学部4年生)



試合会場で電話対応に追われる黒石さん

また、KGADに加盟するに当たり、大学の名前を背負ってラグビーをする以上、学生として

て学業にもしっかりと取り組むべきだと「学業とスポーツ活動との両立」を再認識しました。そこで、各学年から「ラーニングリーダー」を2人選び、修得単位数が思わしくない学生と面談して一緒に改善策を考える体制を新たに整えました。

今度の活動では、他部との垣根を越えた交流に期待しています。関東の大学と戦う中で力不足に感じていた分析力を身に付けるため、昨年からのアナリストの部門を設けました。アメリカンフットボール部や女子ラグロ

ス部など、分析の技術が確立している部から学びたいと思っています。

**本** 年度ラグビー部の目標「愛し、愛されるチームで日本一」と、KGADの思想とが、とてもマッチしていると感じました。愛される部を目指して、子どもたちへの指導など地域貢献活動を続けてきましたが、それに加え、部員たち自身がチームを愛するためには帰属意識を持つことが大切です。加盟団体となったことでより一層、大学やチームへの帰属意識を持って行動し、地域や学生に応援してもらえるチームとなるよう部員に促していこうと考えています。

KGADに期待することや部としての新たな挑戦、これからの抱負など、加盟団体の監督、主務、主務、学生トレーナーが、それぞれの役割から今の思いを伝えます。

学生  
トレーナー

## トレーナーの仕事他部にも広げ チーム力の向上に貢献します



アイスホッケー部・学生トレーナー  
蓮井 宙生さん  
(文学部4年生)

アイスホッケーのようなコンタクト競技をする上でウェイトトレーニングは必須。私が転身したことで、チーム単位でまとまったトレーニングができる



トレーニングも大事な役目(右が蓮井さん)

また、試合の告知や広報をしてもらうことで、観戦者が増えるのではと期待しています。部としても広報に協力し、学内のアイスホッケーファンづくりに努めたいと考えています。

**ス** ポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験で合格して間もなく、「運動後急性腎不全」という病気が発覚し、激しい運動ができない体に。当初は退部も考えましたが、真摯にアイスホッケーに取り組んできた10年余りを無駄にしたくないと、部で初の学生トレーナーに転身しました。現在は全選手

のトレーニングメニューの作成・更新、テーピング、体調管理のほか、アナライジングスタッフとして過去の試合映像の分析も担当。並行し、トレーナーの仕事に関するマニュアルを作成しています。

また、試合の告知や広報をしてもらうことで、観戦者が増えるのではと期待しています。部としても広報に協力し、学内のアイスホッケーファンづくりに努めたいと考えています。



MGスポーツ株式会社  
ソリューションプロデューサー  
鈴木 康藏さん

MGスポーツはスポーツのマーケティングをする会社です。アメリカでは、大学スポーツにスポーツビジネスのプロが関わるケースが多く、健全性や透明性の点からも良いとされています。KGADのパートナーとして、Webによる広報展開や企業との連携などにわれわれのノウハウを活用していただきたいと考えています。

小学生までサッカー、水泳、体操を経験したものの、運動音痴のため苦手意識からスポーツが嫌になりました。中学、高校の6年間は吹奏楽部でスポーツを応援し、サポートする魅力を体感。KGADの学生による企画広報チームの存在を知り、スポーツが苦手、応援する側という二つの視点を持つ人間がいても面白いかなと応募しました。



KGAD学生企画広報チーム  
池田 彩乃さん  
(総合政策学部3年生)

# 全ての関学生の力を結集し スポーツを通じて 関学ファンを増やそう!

**加盟するための条件は？  
体育会に所属していない学生の関わり方は？  
これから活動が本格化するKGADについて、  
詳しくは知らないという人も多いはずです。  
KGADに関心を持つ学生が、  
新たな組織への期待を込めつつ  
担当者と意見を交わしました。**



体育会学生本部は、体育会42部49部を統括する学生の自治組織、執行機関と位置付けられます。昨年11月から本部長をしています。選手としてはサッカー部に所属し、ポジションはMF。副主将を務めています。KGADには、サッカー部としては男女ともに加盟、体育会学生本部は未加盟という、少し複雑な立場にいます。

体育会学生本部  
本部長  
中井 一堯さん  
(法学部4年生)



2016年度からKGADの創設に関わってきました。始動した今も、スポーツを核として、関西学院大学の学生や卒業生、関係者の帰属意識を高めるため、さらに地域にも愛され関学ファンを増やすために試行錯誤しています。学生時代はアメリカンフットボール部ファイターズに所属し、ポジションはLB。今はコーチをしています。

学生支援機構事務部  
専任参事  
堀口 直親さん







### 競技スポーツを統括するAD 関西学院大学でも実現を

**池田** そもそもKGADの「AD」とは何ですか。

**鈴木** 「Athletic Department」いわゆるスポーツ局です。アメリカの大学は、学内に競技スポーツを統括する組織があり、学生のリクルーティングから施設管理、スポンサーシップの獲得までやっています。このADが一番大切にしているのが、スポーツと学業の両立です。だから大学でスポーツをやっている人は尊敬され、見本とされます。

**堀口** それを関西学院大学でも実現しようということです。

アメリカは、一つのADに競技団体が平均19チーム。選手数600人以下に対しスタッフは100人〜200人ですから、きめ細かなケアができます。スポーツを応援する文化が根付き、指導者は「Zoning Coach」、国の未来を担う人材を育てる人と呼ばれる人間性も求められます。きちんとした組織の下、しっかりした方針で動いています。練習時間も競技ごとに厳密に管理することで、ちゃんと勉強もさせます。アメリカの学生アスリートはタイムマネジメントがとて上手ですね。

**中井** サッカー部は、4学年合わせて選手172人に対し、学生スタッフは23人です。学業との両立という面でも、組織体制でも、日本とは大きな差を感じ



### 体育会学生本部と同様に 学生の主体性を重視

**池田** 体育会学生本部がKGADに加盟していないのはなぜですか。

**中井** 初めてKGADの話聞いた時、学生本部と役割が重なっているという印象を受けました。ただ、これまで学生だけでやっていたことを、大学はもうろん、体育会以外の学生も巻き込んで進めていく点が大きな違いです。私たちも一緒に貢献していきたいと考えたのですが、一部の方から「学生たちの自主性という魅力が失われるのではないかと懸念の声



↑2021年度リーダーズキャンプは昨年12月にオンライン開催。応援団総部を含む41部50パートの107人が参加



が上がリ、当初の加盟はかきませんでした。自主性については原則学生主体と伺いましたので、話し合いを重ね、今年中の加盟を目指しているところです。

**鈴木** 本格的な活動には、学生さんの主体的かつ能動的な動きが重要となります。目指すところは同じですので、協力して関学スポーツを盛り上げていきましょう。

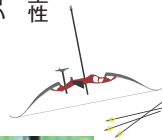
**中井** 体育会にもKGAD加盟を考えている部はたくさんあります。承認されるための重要な要件は何ですか。

**堀口** 第一に、現場責任者が最低でも月10日は直接指導することが挙げられます。また、チーム運営に必要な学生スタッフ数の確保、たとえ今は及ばなくても増員を意識しているかどうか、さらに目指すところや本気で勝負気があるかなどを確認します。加盟する以上はKGADへの理解も深めておいてほしいですね。ただし加盟は任意であり、課外活動として続けていくこともできます。

### 部活間のつながりを構築 悩みを相談し合える関係に

**鈴木** 池田さんはなぜスポーツが苦手になったのですか。

**池田** スポーツができる人は気が強いと勝手な固

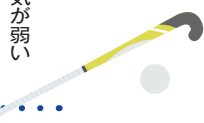




定観念を持ってしまいました。私はすごく気が弱いので…。でも大学に入って、トップアスリートの人と一緒に授業を受けたりするうちに、それは間違いだたと気付きました。

**鈴木** 池田さんのように小学生時代にスポーツが嫌になることがあります。子どもたちにKGADができることは何でしょうか。

**堀口** アスリートが指導に行ったり、逆に関学でのイ



ベントに来てもらったりする中で、いろいろな人間がいて、いろいろな個性があることを上手に伝えることが大事です。スポーツは楽しむもの、その原点を理解してほしいと思います。

中井さん、今の体育会は横のつながりがありますか。

**中井** リーダースキャンプやフレッシュヤーズキャンプなどでつながりをつくろうと動いています。目に見えるものではありませんが、成果は出ていていると感じます。私個人としては同じ班だった部の主将から相談を受けるなど、関係性は継続しています。

**堀口** そういう関係をもっと構築すれば、一つの団体が100備えなくても、50の力でも多くを吸収できるはず。「君のチームはどうしてる？」と自然に聞けるかどうか。悩みを話せる関係性をみんなで作っていくっていうのもKGADの狙いの一つです。

### 体育会以外の学生の豊かな視点や価値観に期待

**中井** 池田さんは学生による企画広報チームの募集を何で知り、どんなことをしたいと思って入りましたか。

**池田** 大学の教学Webサービス<sup>\*</sup>を見て、企画広報関係ができるならと思って。先日、初めてミーティ

ングに参加したところ、体育会学生のジャージ率がすごく高くて、ピンクの服を着ていた私は浮いていました。でも、実際に話してみると、熱心に意見を聞いてくれて、体育会の人って優しいなど先入観を改めました。ちまじと近寄りやすいオーラを感じていましたので。

**中井** 意図せずそう見えているのかもしれませんが、自分でも、体育会はある意味、狭い価値観や凝り固まった考え方が根強いように感じています。体育会以外の学生の豊かな視点や考え方、価値観を反映させることができれば、大学スポーツはもっと良くなっていくはず。KGADでいろいろな学生と一緒に活動できるのはいいことですね。

**堀口** 関学生全員で、まずはスポーツを切り口に関学大好きな人を増やそうという取り組みです。「する」だけでなく「みる」「ささえる」など、どんな形でも携われるのがスポーツのいいところだと思います。中でも「ささえる」はKGADが大切にしている部分で、学生企画広報チームの活動その一つです。

**池田** 私はKSC（神戸三田キャンパス）にある総合政策学部メディア情報学科で学んでいて、周りには動画編集などを得意とする人が大勢います。先日のミーティングで、試合の予告動画を学内で流したいという話が出ましたが、それを彼らに任せたら



↑学生企画広報チームのミーティング

<sup>\*</sup>…教学Webサービス  
休講情報や履修登録など、在学生限定の学内サイト。8月14日でサービス終了。現在は新ポータルサイト「kwic」が稼働。



<sup>\*</sup>…リーダースキャンプ  
フレッシュヤーズキャンプ  
リーダースキャンプは体育会各部幹部を対象に12月に、フレッシュヤーズキャンプは新入部員を対象に1月に実施。いずれも体育会学生本部が学生主体で企画・運営する、関西学院大学体育会の伝統行事。



**堀口** 勝利を目指しながら、どうすれば関学生として見本になれるのかを日々考えてほしい。みんなの

と何ですか。

KGADに加盟した団体や学生が心掛けるべきこ

ありがとうございます。

**中井** 私たち選手も、応援してくださいる人が多ければ多いほど力が出ます。支えてくださるのとはとても

生が増えるのではと思いました。

多いですが、「楽しいよ」と伝えていけば参加する学生が増えるのではと思いました。

**池田** いいと思います。KSCで学生企画広報チームの話をしたら、「私も関わりたい」という学生

画するのはどうですか。

**鈴木** KGADができたことで、学外の人に対して、また体育会以外の学生の皆さんに対して、関学スポーツの魅力をラッシュしていきます。特に学内のフ



### 勝ちを目指しながら 品位を持って行動すること

KSCにもファンが増えますし、他のみんなも見るとは。もっと学生を頼ってほしいなと思っ



**鈴木** すでにKGADのホームページやSNSを展



**堀口** 多様な研修や講習会はもちろん、監督、主将、主務などさまざまな立場の人が、チームが抱える悩みや疑問を本音で語り合う場をどんどん設けたい。その中から、新たな企画も生まれてくると思います。



**中井** 今後の活動内容を教えてください。

### ひと月2本の番組で 関学のスポーツの今を発信

アピールできるはずですよ。

残り9割の力を借りることで、さらに関学の良さを

約2万7000人のうち体育会の学生は1割ほど。



**堀口** アスリート以外のさまざまな能力を持っている学生の力を集結してKGADおよび関学スポーツの魅力を発信していきたいという意味では、学生企画広報チームへの期待値は非常に高いです。関学学生



**池田** 体育会以外の学生には、どういう期待をされていますか。

重要だと考えています。

活動が関学の教育として学外に伝わっていくわけですから。例えば、試合中にマジを飛ばしまくって勝つたとして、それが本場に品位のあることなのかということ。勝つにしろ負けるにしろ品位を持ってやる、それを支える人も品位を持って行動することが重要だと考えています。

開しており、9月には各チームのホームページもKGAD本体と統一感を持たせ、情報の更新を含め運動させていきます。10月からは、1カ月2本くらい番組を制作し、それを見れば直近2週間の関学のスポーツに関する事が分かるようになります。学生企画広報チームにどんどん動いていただき、学生さんがやりたいと思うことは全て実現していくつもりです。



はと今からつきまします。

と、学生生活がますます充実するのではと今からつきまします。

ますし、応援に行くと、大学での姿を重ねて負けたら悔しい勝てば泣いて喜べます。KGADでそういうところに関わると、学生生活がますます充実するのではと今からつきまします。

ると、私も頑張ろうという気持ちになります。KGADでそういうところに関わると、学生生活がますます充実するのではと今からつきまします。



**池田** 必ず伝えていきます。学業にもスポーツにも真摯に取り組んでいる人を見ると、私も頑張ろうという気持ちになります。KGADでそういうところに関わると、学生生活がますます充実するのではと今からつきまします。

共に取り組むことができます。どの部も勝つために本気で熱量を持って打ち込んでい

共に取り組むことができます。どの部も勝つために本気で熱量を持って打ち込んでい

共に取り組むことができます。どの部も勝つために本気で熱量を持って打ち込んでい

共に取り組むことができます。どの部も勝つために本気で熱量を持って打ち込んでい

共に取り組むことができます。どの部も勝つために本気で熱量を持って打ち込んでい

共に取り組むことができます。どの部も勝つために本気で熱量を持って打ち込んでい

共に取り組むことができます。どの部も勝つために本気で熱量を持って打ち込んでい

共に取り組むことができます。どの部も勝つために本気で熱量を持って打ち込んでい

共に取り組むことができます。どの部も勝つために本気で熱量を持って打ち込んでい

共に取り組むことができます。どの部も勝つために本気で熱量を持って打ち込んでい

### ★9月にリニューアルしたKGADのホームページ



## 関西学生野球リーグで8年ぶり優勝 夢のプロ野球選手へ道筋をつける

今年5月、関西学生野球連盟春季リーグ戦でエースとして5勝し、2013年秋以来となる優勝に貢献。自身は最優秀投手・選手となり、ベストナインにも選出された。

最速151km/hの直球を持ち味とするサウスポー。少年野球の監督だった父や、ひと足先に野球を始めた二人の兄の影響で、小学1年生からチームに入った。野手も経験したが、中学3年生以降は投手に専念。高校は地元和歌山の強豪校を選び、3年生の夏には甲子園のマウンドに立った。

その年の春、ある球団のスカウトから進路を問う電話があり、初めてプロを意識する。当時、すでに関西学院大学への進学が決まっており、「先輩に『有力な投手がないから来てほしい』と誘われていたので、1年生から試合に出られれば、力をアピールできる機会が増えると思いました」。高校の卒業式を終えるとすぐに大学の練習に参加。1年目の春季リーグから登板機会を得た。

普段の練習には「自分が一番下手くそだ」という気持ちで臨む一方、試合では勝気だ。「ストリートは自信がありますし、ピンチでも怖気つかずに強気で投げられるのが強みです」。



悲願の春季リーグ優勝を果たしガッツポーズ

しかし、3年間はリーグ戦4〜6位と低迷し、自身もけがや不調などで苦しい時期が続いた。迎えた最終学年、「信じて起用し続けてくれた監督やチームメイトに報いたい」と強い決意で挑んだ。

春季リーグ優勝後、チームは全日本大学野球選手権大会で8強入りを果たすも「日本一になれなかったので、まだまだゴールではない」とストイックに前を向く。プロ球界入りの呼び声も高いが、間近に迫る秋季リーグ戦を見据え、変化球にもさらに磨きをかける。

01 Takumi Kurohara  
黒原 拓未さん  
社会学部4年生





02

Junichiro Takashima  
 鷹嶋 純一郎さん  
 人間福祉学部4年生

## 英語を学びながら本場のラグビーを体感 留学での経験が卒業論文のテーマに

大学1年生だった2019年3月の2週間、「スポーツ」という新たな切り口で英語と世界に触れる留学プログラム「English through Sport」に参加。オーストラリアのシドニーにあるニューサウスウェールズ大学で英語を学ぶとともに、プロラグビーチーム「NSWワラターズ」のスタッフによる講義を受けた。

小中高とラグビー漬けの日々を送り、「大学では強いチームに入り、本気で打ち込みたい」と関西学院大学へ。部の同期生に誘われ、「ラグビーの知識や技術を高めるのはもちろん、学生のうちに海外に触れて視野を広げたい」と留学を決意。英語には苦手意識があったが、憧れの強豪チームと交流できることに魅力を感じた。

午前は英語の集中講義。会話中心の授業で実践的な英語力を身に付け、ホストファミリーと意思疎通ができるまでになった。午後はワラターズのゼネラルマネージャーやトレーナーが日替わりで登壇し、チーム運営やトレーニングの方法を教わった。「トレーニングでは、常に目的意識を持って取り組むことが重視されていました。帰国後、それまで漫然と行っていた

練習に目的を持つことで、バスやキックなどに理想とするプレーが体現できるようになりました」

放課後には大学のラグビー部の練習に加わった。日本の留学生に当初はあまり関心を持っていなかった部員たちも、最後に部内のミニゲームで得点した時は抱き合って喜んでくれた。「チームの一員として一緒にラグビーができたんだと実感しました」

この時の経験がきっかけとなり、グローバル社会における多文化共生を研究テーマとするゼミを選択。卒業論文では、日本ラグビー界における外国人選手について研究を進める。



現地のプロラグビーチームと交流

社会問題に対して  
スポーツを手段に  
解決の方策を探る



## ス

スポーツ経営学やスポーツマネジメントといった分野はスポーツビジネスに関する研究と捉えられることが多いのですが、私は、「スポーツを使って社会問題や身近な問題を解決する」ことを大きな目的としています。

例えば人口減少の問題。地域から若者が出て行く原因の一つは、「まち」に個性がないことです。似たようなまちであれば、仕事が多い地域や給料が高い所に行ってしまうが、個性や誇りに思えるものがあれば流出は止められます。そこで、「プロスポーツチームがある」ことが、まちの個性や住民の地域愛につながるのではと考えました。

実際に、西宮市を本拠地とするアメリカンフットボールの社会人チーム「西宮ブルーインズ」の試合でアンケート調査を行い、ブルーインズへの愛着が高いほど西宮市への愛着も高いことが明らかになりました。スポーツチームの存在だけが地域愛を高めるわけではありませんが、その手段になり得るのです。

最近では、「大学の体育会が学生の居場所になり得るか」をテーマに研究を進めています。コロナ禍で大半がオンライン授業になり、今の1、2年生はほとんど登校できていません。「友達ができない」「大学生になった実感がなく」「孤独感にさいなまれ、退学するケースも大学によっては出ているようです。この問題の解決には大学内での居場所づくりが重要です。居場所の一つに

まず、身の回りの問題点をできるだけ多く挙げ、その中からスポーツが貢献できそうな問題を抽出。解決の一助となるようなイベントを企画し、実現まで持っていけます。イベントを企画する際には、地域性と話題性と社会性がキーワードになります。関西学院大学になじみのある地



です。まず、身の回りの問題点をできるだけ多く挙げ、その中からスポーツが貢献できそうな問題を抽出。解決の一助となるようなイベントを企画し、実現まで持っていけます。イベントを企画する際には、地域性と話題性と社会性がキーワードになります。関西学院大学になじみのある地

るものです。1時間目は陸上部による走り方教室で、50m走のタイムを測定。2時間目は教室で「タイムから自分の秒速を求めてみましょう」と、算数の授業を行います。この時は、当時の陸上部員で東京五輪に出場した多田修平選手にも走ってもらいました。一流選手の走りを見るだけでも子どもたちは喜びますし、「多田選手に勝つためには何メートルのハンディ(距離)が必要でしょうか」という問題にも興味を持って取り組んでくれました。他にも、英語嫌いの解消を目的とした「Basketball」や、学内の留学生と非留学生の交流を活発化するために「キンボール」のイベントなどを開催。本年度も新たな企画が進行中です。

学生たちには、一見すると全くスポーツと関係ないようなことを、スポーツと結び付けて考察してほしいですね。卒論も、多くの学生はスポーツを主役にしています。そうではなく、スポーツはあくまでも手段と捉え、スポーツが貢献できるであろう社会問題を見つけ出し、その解決につなげてほしいと思います。

体育会がなり得るとの仮説を立て、所属している体育会への愛着と大学に対する帰属意識はどう関係しているのか、あるいは、体育会所属の学生とそうでない学生で愛着心を比べた際に差があるのか等を調べています。

ゼミでは課題解決型のスポーツイベントを企画・実行しています。その一つが、地域の小学校に向いて実施した「走って！考えて！陸上×算数教室」。小学生の算数嫌いをスポーツと組み合わせることで解消しようとする

その一つが、地域の小学校に向いて実施した「走って！考えて！陸上×算数教室」。小学生の算数嫌いをスポーツと組み合わせることで解消しようとする

### 人間福祉学部 林直也 教授

#### Profile Naoya Hayashi

関西学院大学経済学部卒業。大阪体育大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程単位取得満期退学。2005年、関西学院大学スポーツ科学・健康科学研究室に着任。2008年、人間福祉学部に移籍し、2018年4月から現職。専門はスポーツ経営学、スポーツマネジメント。

### My favorite

#### 野球

中学まで野球をしていたこともあり、試合を見るのが好きです。阪神タイガースの佐藤輝明選手には以前から注目しており、大学時代の全公式戦の結果をチェックしていました。応援しているタイガースに入ってくれた時は本当にうれしかったです。



#新生KSC

# 再編を記念し スペシャルゲストと共に 分野横断の学びに触れる

KSC（神戸三田キャンパス）は今春、新設の理学部、工学部、生命環境学部、建築学部の理系4学部とリニューアルした総合政策学部から成る5学部体制に生まれ変わりました。これを記念し、スペシャルゲストを招いて3回のイベントを開催。5月10日にはジャーナリストの池上彰氏、14日には建築家の隈研吾氏を、さらに18日には教育系YouTuberのヨビノリたくみ氏とKSC5学部の教員によるトークセッションを行いました。

## 第1弾

### 池上 彰氏 大学時代に 貪欲に学ぶことで、 今後の人生を豊かに



「大学時代に何をなすべきか」をテーマに、VI号館101室とオンライン併用で実施。オンライン385人を含む約630人の学生、教職員が参加しました。

人生100年時代を迎え、「どれだけ新しいことを学ぶことができるかが、社会に出てからの長い人生を豊かにする。その学ぶ力を身に付けるのが大学時代」と池上氏。「高校までの受け身の姿勢ではなく、意欲を持って貪欲に求めれば、大学はいくらでも応えてくれる」と話しました。コロナ禍の今、私たちは日本社会が大きく変わろうとする分岐点に立ってい

るとし、「2050年の歴史の教科書にどう書かれるかは皆さん次第。歴史をつくる当事者として、みずみずしい感性と好奇心を持って自分たちにしかできないものを創出してほしい」とエールを送りました。

最後に、「さまざまな学部の人がいる、サークル活動などキャンパス生活を謳歌することで文理融合の視点が得られる」と新生KSCを評価しました。



## 第2弾

### 隈 研吾氏 自然と共生する建築、 技術を学びKSCから新時代を



「ポストコロナ時代の都市と建築」と題し、KSCと隈氏の事務所を結んで開催。建築学部の一期生127人を含む約530人が参加しました。

最初に、西宮上ヶ原キャンパスを設計したW.M.ヴォーリスに触れ、「自然素材や屋根を使って周りの景観になじませる手法は、今の時代の建築にヒントを与える」と述べました。さらに国内外で活躍する隈氏らしく多彩な事例を紹介。「太宰府天満宮の表参道にあるスターバックスコーヒーは日本の伝統的な木組み構造で、世界一インスタに取り上げられた」「長岡市役所には土間を設け、地元の和紙や絹織物を使用。年間125万人が来庁する」と、地域の伝統や文化を大切にすることを説きました。

「自然と共生するには、環境に配慮した材料や工法を採用するための技術が必要。しっかりと身に付けてほしい」と訴え、「ポストコロナではやわらかい空間が求められる。関西学院から新しい時代をひらいてほしい」と期待を語りました。





予備校のノリで学ぶ  
「大学の数学・物理」を運営

### 第3弾

ヨビノリたくみ氏

## 学部の垣根を越えた学びが、 人生の選択肢を広げる



ヨビノリたくみ氏をファシリテーターに、理学部物理・宇宙学科の平賀純子教授、工学部物質工学課程の藤原明比古教授、生命環境学部生命医科学科の矢尾育子教授、建築学部建築学科の原哲也教授、総合政策学部国際政策学科の西立野准教授が参加。二つのテーマでディスカッションし、会場のアカデミックコモンスの80人（抽選）をはじめ、YouTube Liveでのオンライン配信も含めて約250人が熱心に視聴しました。



「大学で学んでおきたかったこと」では、プログラミングやデータサイエンスの必要性が指摘され、「物事を考えることに、より多くの時間を割けるのがデータサイエンスの本質」（西立野准教授）、「天文学では衛星で観測したデータの解析手法を考えるのが醍醐味で、まさにデータサイエンス。自分の思

考を実現できるツールとして活用することが重要」（平賀教授）、「学生の方が早くプログラミングを覚え、データ解析にも取り組んでくれる」（矢尾教授）などと発言。原教授は「生物を勉強しておけばよかった。生物学的な知識は建築の構造を考える上で参考になる」と話し、「建築の専門家から生物の話が出るとは」とヨビノリ氏から驚きの言葉が出ました。



「KSCでできる分野横断の可能性」では、藤原教授がAI活用やベンチャービジネス、都市デザイン、環境といった先端的な科目が学部の垣根を越えて学べる「KSC分野横断科目群」を紹介。「理系なら都市開発や環境分野など製造業以外への就職も可能に。人生の選択の幅が広がる学び」と意義を語りました。ヨビノリ氏も「自分の研究を始めるまで何が必要かは分からない。いろいろな学びやツールに触れ、何ができるかを知っておくことが大事」と分野横断の重要性を強調しました。

また6月25日には、「大学の研究室に突撃してみた」として、ヨビノリ氏が理系4学部の研究室・ゼミを訪問し、普段は見られない学びの様子をYouTubeで公開しました。



ヨビノリ氏のYouTubeチャンネルで公開中!

「関西学院大学の教授陣と語る分野横断の可能性」  
<https://youtu.be/bzWITgDY1iA>

「大学の研究室に突撃してみた」  
<https://youtu.be/DWVoMSjNtVl>



## TOPICS

### 環境問題の解決策を探る 実践の場「BIZCAFFÉ」



理系学生のビジネススマインドを醸成する学びの場として、株式会社エンリッシヨンの協力を得て今春、アカデミックコモンスにオープン。国内の大学では初の試み。学内でのペットボトル消費量の年間10万本削減を目標に、関西学院オリジナルマイボトルを持参した学生にはコーヒーや紅茶等の飲料を無料で提供する取り組みを始めています。

また、今後はこの場に集う新たな集合体「BIZCLASS」を構想中です。キャリアアセターと同社が共同で学生に助言支援したい企業や団体を募集。在学中からビジネススマインドを習得し、卒業後のキャリアをより具体化することで、社会で活躍できる人材の育成を目指します。

### 分野横断プログラム 「SDGs実践入門」

各学部の教員をはじめ、タボス会議にもつながる若手事業家集団のNPO「グローバルシエイバーズ」のスタッフなど、さまざまな分野からゲスト講師を招きオムニバス形式で実施。ビジネスや都市デザイン、科学など、さまざまな切り口から世界が直面する問題を学び、SDGsの達成につながる実践的な活動やその在り方を考えました。

※：世界経済フォーラムが毎年1月、スイスで開く年次総会、世界各国の政治、行政、経済などのトップが集まり、諸問題について討議する。



# NOBLE STUBBORNESS

~KGAD加盟チーム~



※2021年7月1日現在加盟チーム。

# スポーツを学問する

勝ち負けを競う競技としてのスポーツから、ウォーキングやフィットネスジム通いなど個々が生活の中で自由に楽しむもの、さらにスポーツ観戦まで、スポーツという言葉の持つ意味は幅広く、「する」「みる」「ささえる」など関わり方もさまざまです。社会的な見方やテクノロジーとの関係性、生涯にわたっての付き合い方など、スポーツについて多角的な視点から話し合いました。



人間福祉学部  
佐藤 博信 准教授

日本体育大学体育学部卒業。2004年に関西学院大学に学長直属専任講師として着任。2007年に兵庫教育大学学校教育研究科修了。2008年から現職。専門は体育史、武道学。



社会学部  
倉島 哲 教授

京都大学文学部卒業、同大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文学)。京都大学人文科学研究所助教、英国マンチェスター大学客員研究員を経て、2009年に関西学院大学社会学部に着任。専門はスポーツ社会学、身体論。



工学部  
嵯峨 宣彦 教授

秋田大学工学資源学部(現理工学部)卒業、信州大学大学院工学系研究科博士課程修了。三菱電機株式会社、秋田県立大学を経て、2009年に関西学院大学理工学部に着任。専門はアクチュエータ工学、ロボット工学、人間支援工学、スポーツ工学。

## スポーツに参加することは 身体を見られること

**佐藤** 人間福祉学部人間科学科には保健体育の教員免許状を取れる課程があり、実技では柔道講義は身体運動文化と障害者スポーツ論を教えています。他学部の学生にもさまざまなスポーツ種目を提供しています。キャン

実習やスキー、スノーボード実習等もあり、提供部局の室長をしています。自己紹介を兼ねて、先生方の研究内容をお話してください。  
**嵯峨** 電機メーカーで自動車機器の開発に携わった後、秋田県立大学を経て、ずっと制御工学を中心にロボットの研究をしています。専門はロボットなどメカトロニクス機器の開発です。現在はバイオロボティクスという分野において、生物や人間の機能や機構、思考などを参考にしながら脳や筋肉に踏み込んで、実社会で使える有効な機器の研究をしています。

す。開発分野は、設計や実験、評価など全て行います。新しいものをゼロから創造するのではなく、さまざまな分野を融合しながら生み出していくのが私の研究スタイルです。  
**倉島** スポーツとは何かを考えるに当たって、私の子ども時代の経験をお話したいと思います。私は走るのが遅く、学校のマラソン大会では、走り終えておしゃべりしながら待っている生徒たちが大勢見ている中でゴールしなければなりません。なぜ、自分がこんな目に遭わないといけない

かと、子ども心に思いました。学力テストでは、成績下位者が張り出されることはないですよ。なのに、スポーツでは、終始誰かに見られなければ、勝敗も決まらないし、記録もつかない。どれほど優れたスポーツ選手でも、自分で勝ち負けを判断することはできません。

※1…バイオロボティクス  
人間や生物の構造や機能、思考などを学び、ロボットや医療・福祉機器など機械システムに応用する分野。



審判や観客に、勝敗を視覚的に判定してもらわねばならない立場にあるのです。要するに、スポーツとは、身体を視覚的に序列化する制度なのです。これが、私が考えるスポーツの本質です。

### 柔術と柔道の違いは 型稽古のみか 試合のルールを持つか

**佐藤** 必然的にスポーツは見られることと結び付いているということですね。

**倉島** これはスポーツに限ったことではありません。フランスの哲学者ミシェル・フーコーは、近代社会が理想とする主体的な個人というものが、権力の監視によってつくられることを指摘しました。

身体を誰かに見られているという意識が、一見して主体的な振る舞いの根底にあるわけです。監獄・学校・病院などの近代的制度は、全て、身体の監視により主体をつくり出す制度なのです。私は、これにスポーツも含めることを提案し、制度としてのスポーツの批判的研究を進めています。

ところで、日本の近代とスポーツを考える上で、柔道は外せませんね。嘉納治五郎は日本古来の柔術を習得し柔道として確立し

ましたが、柔術と柔道の一番の違いは何だと思えますか。

**佐藤** 柔術は人殺しの術から始まっていますが、柔道は人間形成に重きを置いています。そこが大きな違いでしょうか。

**倉島** 確かにその通りです。しかし、文明開化と武士階級の廃止により多くの柔術道場がつぶれる中で、柔道だけが若者を引き付けた理由がもう一つあるので

す。江戸時代までの柔術では、稽古といえば型稽古だけでした。こうした中で、嘉納治五郎は、試合審判規程を制定しました。自由に技を掛け合い、勝敗を視覚的に判定する制度を確立したのです。この分かりやすさが、若者の勝負心を大いに刺激したわけです。従って、柔道とは「スポーツ化」した柔術であるといえます。

### 根性論や精神論から 力学に基づいた 奥行きのある練習へ

**佐藤** 武道とスポーツの境目は何か、難しいですね。ただ、両方に良い部分があり、教員としては、それを伝えていかなければならないと感じています。

嵯峨先生、異なる視点で見られて、スポーツの価値はどこにあ

ると思えますか。

**嵯峨** 私がスポーツと関わっているのは、スポーツが力学の塊だからです。柔道では「小よく大を制す」「柔よく剛を制す」とよく言います。それは論理的、力学的に理

にかなった考え方で、単純に体を動かすだけではない奥行きを感じます。秋田にいたころ、2007年の国体開催に備えて、科学スポーツスタップとしてカヌーやフェンシング、アルペンスキーなどのマ

イナー競技をサポートしました。戦績上位の人たちを見ていると、力学的な問題をきちんと頭で理解し、理想的なフォームはどんな形か、そのためにはどういうトレーニングをすればいいかといったことを常に考えており、そういう奥行きを分かっていると競技の上位にはなれないと感じました。

人には右利きと左利きがいて、「左右均等になるよう右をもつと鍛えましょう」的な助言は中学生くらいまでで、日常的に大会が目の前に控え、「国体に行けるか」「インカレに出られるか」というシビアな状況にいる選手はそんな悠長なトレーニングを提案しても聞いてくれません。

**佐藤** 現状の身体的特徴で勝たなければならぬということ

ですね。

**嵯峨** 目の前の大会で勝つためには、今の自分の身体特徴を理解した上で、それを生かすようなフォーム、鍛え方をしなければなりません。例えば、カヌー競技では成績上位者でもフォームを測定すると、癖がありアンバランスだと思っても、実際に競技中はうまくバランスを取り、最大の推進力を得られるような姿勢をつくっています。現状をどうカバーして勝つかという領域の人たちが上位にいる意味を考えると、スポーツは



空気圧人工筋肉ロボットアーム  
(写真提供: 嵯峨研究室)



この20年くらいで根性論や単純な精神論だけではカバーできないものに変わってきたのだらうと受け止めています。

## スポーツが求めるのは自然を排除した人工的空間

**倉島** カヌー競技といえば、先の東京五輪で、葛西臨海公園の一部を埋め立てて競技場を造る計画が、日本野鳥の会などの反対により変更されたのは記憶に新しいですね。水鳥たちの繁殖の場である干潟にコンクリート製の水路を建設した上で、電動ポンプで人工の急流を造り出そうという計画は、自然環境を損なうものです。本来、カヌーはスラロームで披露される技は、自然の渓谷でカヌーを操る技です。しかし、これがスポーツ競技として制度化されてしまうと、競技条件の公平性や、観客のアクセスの利便性を保証するためには、人工の競技場がべ

ストということになります。そのために自然が犠牲になるのです。世界中のオリンピック開催地で同じ問題が繰り返されていますね。スポーツの本質が、身体を視覚的に序列化することであること、を思い起こせば、自然の空間がスポーツに不都合であることは明らかです。自然は際限のない広がりを持ち、刻々と変化してしまうわけですから。逆に、理想のスポーツ空間はドーム球場ですね。完全な人工空間ですから、天候も昼夜も問わず、視線が隅々まで行き届きます。

**佐藤** 環境という点で今の時代、スポーツを楽しめる空間はスポーツクラブなどお金を出して利用する場所を除けば、どんどん少なくなってきています。公園で野球をすれば危ないと怒られるし、川で遊ぶのも違った意味で危険です。今の子どもたちは結局、テレビゲームなどをする以外にないのかなという気がしています。

**倉島** 水泳でも、競技水泳と川遊びは違います。競技水泳のためのアリーナは自然を排除した空間ですが、川遊びは自然と人間との関係の中で成立します。確かに川遊びには水難事故などの危険が伴いますが、競技水泳に対する

オルタナティブな身体活動としての可能性があります。そういうものをもっと見直してもいいのではないかと思います。

## ガッツポーズの是非とルール改正が創出する面白さ

**佐藤** 柔道の魅力は、嵯峨先生が言われた「小よく大を制す」「柔よく剛を制す」というところと、礼法にあると思っています。学生によく尋ねるのは、ガッツポーズをどう思うかということです。私は学生時代、強くて有名な選手と対戦し、たまたま勝ったことがあります。うれしさのあまり飛び上がってガッツポーズをしたところ、指導者からものすごく怒られました。なぜ怒られるのか非常に疑問でしたが、競技スポーツを離れて大学の教員になった時に、もう一度考えてみようという礼法を学び直し結論に至りました。一つの理由は、互いに尊敬の念を持つて戦わなければ成長はないということ。加えてもう一つ、武士は無礼な行為によりどちらかが刀を抜けば死につながるため、極力、無礼な行為はしないということがあったのだと思います。いずれの面でも礼法は大事です。

や果たし合いがしばしば泥沼化して、緊張状態が続くのは対照的です。こうしたスポーツの制度的な特徴を考えたとき、試合終了時に緊張の糸が切れて、ガッツポーズが出てしまっても不思議ではありません。

**佐藤** 柔道のルールは時代とともにかなり変化してきました。嘉納治五郎が創始した当初は「一本」

**倉島** ガッツポーズは非常に難しい問題です。まず、スポーツの試合は原則として、実力伯仲同士の対戦です。例えば、野球の対戦は同じリーグ内で行われ、柔道では体重別に階級が分かれていますね。その上、スポーツの試合には、必ず明確な終わりがあります。ケンカ



※2…空気圧人工筋アクチュエータ  
ゴムなどの弾性材に空気などの流体を注  
入して動力を得るアクチュエータ。生体の  
筋肉と同様の特性を有する。



## 人間の動作は 使われる筋肉の 組み合わせが生み出す

倉島 人間の運動はすごく多様です。例えば箸の使い方も、

「技あり」しかなかったのに、国際化したことよって「有効」や「効果」が加わります。ところが、それでどんどん面白くなくなっていったため、再び「一本」と「技あり」だけに戻ったという経緯があります。

倉島 観客としても、技がきれいに決まった方が面白いです。

佐藤 一本を取れるような技でなければ上達はない、それは嘉納治五郎が一番目指したところだと思います。他のスポーツも同様で、野球はホームランを目指すことでバッティング技術が磨かれます。そういうのがスポーツの根幹にある魅力ではないでしょうか。

作法として正しくはないけれども、食べ物や口に運ぶという用は足せている、という持ち方をしている人も多いためです。目的は同じでも、達成するための身体の使い方はたくさんあるわけです。嵯峨先生、ロボットをつくる場合、何をモデルにすればいいのでしょうか。

嵯峨 リハビリテーションや人間支援をテーマに開発を進める際には、まず人間の動きを再現する必要があります。例えば、腕の動き。30年ほど前、工場用ロボットは、物をつかみ、運んで、離すという単純な動作をモーターで実現できました。しかし、人間支援には人間と同じ動作が求められるため、モーターに代わる軽量で柔らかい

空気圧人工筋アクチュエータを開発し、ロボットアームを構成するようにしました。例えば壁を押し

場合、ロボットは手先にあまり自由度を持たないため、真つすぐ向こう側に押す以外にありません。人間の場合は、向こう側にも、斜め上にも、いろいろな方向に押すことが可能です。それは使われる筋肉の組み合わせが生み出すのです。だから、対象とする動作やどんな人を基準にするかが重要で、人間工学的には身長や体重

から腕や足の長さやそれぞれの重さなどが決まってくるので、この統計データを基本に、動きは学生など10人ほどのデータを取り、ロボットの仕様を考えます。運動の場合は、さまざまな人がいろんな物を使う中での標準的な動きを大事にします。動かしている軌道や筋肉の活動状態を調べ、どう

いうふうに対応すればいいのかが事前に理解した上で支援機器を設計します。

倉島 面白いですね。ただ、障害のアシストを考えると、年齢を重ねるにつれて、誰もが「標準的な身体」から遠ざかっていくことが問題です。若いうちは身長・体重などの比較的単純な変数に基づいて「標準的な動き」を想定しやすいはずですが。しかし、年を取れば取るほど、さまざまな病気や障害が出現します。膝が痛い人も

いれば、肘が痛い人もいます。このように、年齢とともに身体は必然的に多様化します。このとき、一人ひとりの必要性をどのようにつまみ分けていくかが大事ですね。

嵯峨 製品が売れるためには、大きなターゲットを狙って万人に使えるものにするのが肝要です。しかしリハビリ機器や支援機

器では、患者さんによって症状や身体特性、生活環境などが異なります。本来一番いいのは、個人の特性を優先的に考えたパーソナルユースですが、そうすると高額になり、リハビリ機器なのに病院でしか使えないということも。逆に、コストを下げたり機能を絞ったり

して平均的に使えるようにすると、使っても症状が改善された実感が無いという話にもなります。「ロボット」とひとくくりにしても、人が立ち入れない危険な場所や単純作業などで人間の機能を代替するロボットと、人間と親密に関わり個人の特性を優先的に考える必要があるロボットでは大きく異なります。



## スポーツ界では 倫理的な問題も考慮し 技術の開発を

**佐藤** パラリンピックでは、たびたび義足の問題が出てきます。記録を伸ばそうと思えば、そんな義足を作れることもできるのですか。

**嵯峨** できると思います。例えば、アルペンスキー競技では国際的な団体が高速化抑制のため、板の形状や素材に制約を設けています。水泳競技において、着用した選手が次々に自己記録を更新するということでウレタン素材の水着が問題になったこともありました。今の競技用義足は弾力、弾性を得るためだけのものです、人間の足としては違和感があります。それで普段歩けま

力を超越して勝負するのは、スポーツの世界ではよくないと思っています。

**佐藤** テクノロジーの側面から、スポーツはこの先どのようなようになっていけばいいと考えますか。

**嵯峨** 難しいですね。スポーツにおいて、競技の中で人間に危険が及ばないことを踏まえた技術や競技者に本来の能力以上を発揮させる技術も次々と出てくるでしょう。どこかで制限や制約を設けないと、スポーツではなくなってしまうと思います。一方で、少子高齢社会では人間の能力を超えて代替するロボットはますます必要とされていきます。その辺はジレンマですね。スポーツ界でこれが問題だと分かった時には、その一世代二世代先の技術がすでに生まれているはずですが、その意味では、難しいですが倫理的な問題も考慮して開発していくことが必要になるでしょう。

## ルールの下での 真剣勝負と 社交としての身体活動

**佐藤** テクノロジーの進歩はさまざまに速さでスポーツに変革をもたらしています。AI（人工知能）は競技審判をしたり、プロ棋

士の研究に活用されたりしており、3Dプリンターもどんどん生かされてくる気がします。生身の人間とそっくりな3Dプリンターで作り、離れた所から操って対戦させるというものも出てくるのかなと思います。倉島先生はこれらのスポーツの在り方をどう考えますか。

**倉島** スポーツの違った在り方を考えることは、視覚がもたらす客観性ばかり重視してきた近代を乗り越えることです。私が注目しているのは、武術の修行者たちの流派を越えた交流の在り方です。私自身も学生時代から武術が趣味で、週末ごとに開催される交流会に参加してきました。太極拳や少林拳などの中国武術のみならず、合気道や柔道などさまざまな流派の修行者が参加するため、交流会には、勝敗を判定するための共通のルールはありません。ただ、相手と向かい合うとき、まず手首同士を接触させるという<sup>すいしゅ</sup>相手の約束に従います。相手との接触を維持しつつ動くことで、相手の熟練度や動きの癖を感じ取って、双方がもつとも有意義に、けがなく練習できる方法を模索するのです。

柔道を含めて、どんな武道で

も似た場面はあります。例えば、新しい技を教えてもらうときに、先生のかける技に対して全力で踏ん張って抵抗したりはしません。相手のやりたいことを身体で感知して、わざと技を受けるわけです。こうした関係の根底にあるのは、相手に対する配慮と



敬意であり、本来の意味での礼なのです。一方で試合で求められるのは、遠慮会釈なしの全力勝負ですよ。礼法の本来の意味を取り戻すためにも、ルールの下での真剣勝負というスポーツの理想を考え直し、社交としての身体活動を楽しむことができたいと思います。







## 体の仕組みを理解し 学生スポーツは けがをせず楽しく

**佐藤** 確かに現代は、勝った、負けたという意識がとても強いと感じます。倉島先生の言われた部分をもっとクローズアップされると、スポーツの楽しみ方も広がってくるはずですよ。

私は、学生時代は柔道に没頭し、卒業してから勉強の大切さに気付いた人間です。学生スポーツについて、嵯峨先生はどう考えますか。

**嵯峨** 学生スポーツは、まずはけがをせず、楽しくやることです。何でもやり過ぎは良くない。けがをしないためには、人間の体はどういう筋肉や骨がどう組み合わさってどんな動きをつくっているのかを知り、自分の能力的にこれ以上負荷をかけたらこの筋肉、この関節に負荷がかかるということくらいは考えて競技に取り組んで

ほしいと思います。全国でトップクラスを目指すような人たちは、さらに深く学んだ上で取り組まないと記録も伸びません。

**倉島** スポーツに打ち込んでいる学生は多いと思いますが、スポーツができる環境は当然ではありません。グラウンドもプールも、莫大な金額をかけて造られた人工空間です。スポーツ仲間がそろっても、仕送りや奨学金のおかげで、モラトリアム時代を謳歌できる

学生だからです。このように空間と時間を「お膳立て」してもらって成立する、特殊な活動がスポーツなのです。ですから、社会に出て、学生の特権がなくなれば、スポーツを続けることも困難になります。しかし、ルールの下で勝敗を競うことだけが、身体を動かす楽しみを他人と共有する方法ではないはずです。学生時代から、この問題を考えてほしいと思います。

**佐藤** 関西学院大学には、日本一になった部、伝統のある部がたくさんあり、競技スポーツをやっている学生は、それらの歴史を学ぶことで見えてくることがあるはずです。また、私自身がそうだったように、自分がやっている競技の過去に目を向けると、今の自

分に生きていくことが絶対にあります。スポーツは何もしていないという学生には、これから少しでも体を動かしてほしい。そういう場として、スポーツ科学・健康科学科目ではあらゆる種目にチャレンジできるので、ぜひ履修してほしいと思います。

## 自分のため世のために スポーツで 真に豊かな人生を

**嵯峨** 人それぞれ年代によって、身近にいろいろなスポーツがあります。私にとっては会社のテニスサークルや地元の小さなスキー場などがそうでした。若いうちは手軽なスポーツを仲間と一緒に楽しむことが、スポーツに長く親しむことにつながります。また年を取ってきたら、健康を考えて一人でもできるウォーキングや縄跳びなど体を動かす意識が必要です。そこに、1万歩歩いたらご褒美にビールを飲むといった自分なりの楽しみを加えながら生活ができればいいですね。

**倉島** 少し前までは、筋トレとはスポーツのパフォーマンスを上げるためにやるものでした。でも最近では、姿勢改善や老化防止、リラクゼーションなど、スポーツを目的

とせず、むしろ自身の身体と向き合うためにトレーニングすることが普通になりつつあります。インターマッスルという言葉も一般化しましたね。これは、とてもいい傾向だと思います。

**佐藤** 私は柔道が専門ですから、その話で締めたいと思います。結局、柔道は何を目的としているかというと、嘉納治五郎は己の完成と世の補益と言っています。世の中を良くするために自らのスキルを磨く。まさしく関西学院のスクールモットー「Mastery for Service」です。関西学院は2039年に150周年を迎えるに当たり「Kwansei Grand Challenge 2039」を策定しました。

その目的は、全ての卒業生がこれからの時代に真に豊かな人生を送ることです。そのためにスポーツはどうあるべきか、自分のためであることはもちろん、最終的には人のため、世の中のためになるものであることが望ましいと考えています。



※座談会は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、オンラインで実施しました。



## 体育会 サッカ一部

創部 / 1918年

部員 / 男女計195人

主将 / (男子) 本山 遥 (女子) 馬場 奈都子

練習場所 / 第4フィールド

### 個々が「俺が原動力。」を体現し 目標は日本一

今年で103年目を迎えた長い伝統のある部活動です。新型コロナウイルスの感染拡大により、練習時間をはじめあらゆる活動に影響を受けていますが、部員一人丸となって日本一という目標達成に向けて前向きに取り組んでいます。

制限がある中でも練習で大切にしていることは変わりません。常に100パーセントの力で取り組み、仲間同士で競争しつつ時には助け合うことで切磋琢磨し成長できる環境を意識しています。また毎月、「今年のビジョン」「俺が原動力。」を体現し、最もチームの原動力となった部員に「マンスリー原動力」を授与する表彰式を実施。部員による投票のため、一人ひとりの主体的な組織への貢献に対する意識が強まるきっかけになっているそうです。主務の中山優作さんも自身が表彰されたことにより、「チームの原動力になれているのだと

# KG CLUB by KGB

昼休みの放送や番組制作などを行っている関西学院大学唯一の放送団体・KGB総部放送局が、多彩な課外活動を紹介します！

KGBの活動は

Twitter→<https://twitter.com/KGBbroadcast>



## Pick up

### スパイク

スパイクはサッカーをする上で唯一の武器と言えます。そのため、スパイク選びは慎重に行わなければなりません。選手によって合うスパイクは違います。素材やサイズ感、スタッドの形など、たくさんの条件がある中、自分にもっとも合うスパイクを選んでいきます。



実感することができ、うれしく感じた」と話します。

さらに、コロナ禍における新たな取り組みとしてYouTubeでの動画配信も積極的に行っています。サッカー部ならではの強みを生かした内容を大切にしながら、チャンネルの登録者数や再生数をいかに伸ばしていくかに苦労したといえます。回を重ねることで動画作成の技術も高まり、最近では女性の視聴者も増えてきました。

今年5月には大学が創設した競技スポーツ局(KGAD)に加盟。KGAD設立の理念が、部の大切に行っている価値観と共通する部分が多かったことから加盟に至りました。「部活動が正課外教育となることにより、部員の大きな学びや成長が得られるよう頑張っていきたい」と中山さんは意気込みを語ります。

さまざまな変化を求められる環境下でも、個々の部員が部の強みである主体性を発揮し全力で活動に取り組めるよう工夫を重ね、部全体としてのモチベーションを高める努力が続けています。「俺が原動力。」を体現し、日本一に向かって突き進んでいくサッカー部から目が離せません。

大学

硬式野球部が8年ぶりにリーグ制覇  
全日本選手権で2勝

硬式野球部は5月25日(火)、わかさスタジアム京都で行われた京都大学との2回戦で勝利。関西学生野球連盟春季リーグ戦10勝2敗、勝ち点5となり、2013年秋季以来、8年ぶり15回目のリーグ優勝を決めました。春季に限ると1993年以来28年ぶりの優勝です。

6月7日(月)から13日(日)にかけて東京の明治神宮球場、東京ドームで開催された「第70回全日本大学野球選手権記念大会」には、関西学生野球連盟の代表として出場。1回戦は四国地区代表の松山大学に6-1、2回戦は千葉県代表の国際武道大学に6-4で勝利し、同大会で62年ぶりに2勝を挙げました。準々決勝は慶應義塾大学と対戦。57年ぶりの準決勝進出とはならず、選手たちは秋の明治神宮野球大会でのリベンジを誓いました。



大学

陸上競技部が選考会で2位に  
全日本駅伝と出雲駅伝の出場権を獲得

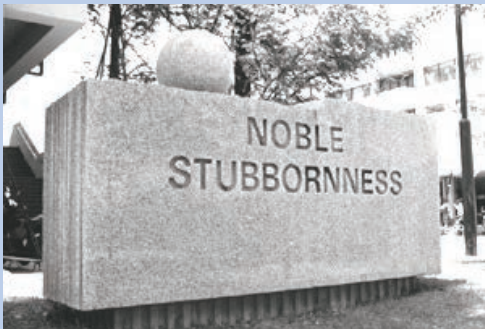
「秩父宮賜杯第53回全日本大学駅伝対校選手権大会」の関西学連出場大学選考会が6月13日(日)、たけびしスタジアム京都で行われ、陸上競技部が2位となりました。

各大学上位8人のタイムの合計で競われるこの選考会。同部は安定した走りでタイムを伸ばし、1位の立命館大学にはわずかに及ばなかったものの、3位の大阪経済大学に2分以上の差をつけました。この結果、11月7日(日)に名古屋市で開催予定の全日本大学対校選手権大会と、10月10日(日)に出雲市で開催予定の「第33回出雲全日本大学選抜駅伝競走」の出場権を獲得しました。



関学カプセル...50

NOBLE STUBBORNNESSの記念碑



“NOBLE STUBBORNNESS”は1920年に庭球部の標語として生まれ、後に体育会全体のモットーとなりました。体育会と体育会OB倶楽部(現体育会同窓倶楽部)は記念碑を作り、1977年3月、総合体育館竣工の日に行いました。

大学

庭球部が関西学生春季トーナメントを勝ち抜き  
過去最多10人、7組がインカレ出場

7月13日(火)から19日(月)まで吹田市の江坂テニスセンターでインカレ予選を兼ねて開催された「2021年度関西学生春季テニストーナメント」に庭球部が出場。男女合わせて過去最多のシングルス10人、ダブルス7組

が、8月12日(木)から22日(日)にかけて四日市テニスセンターで行われた「2021年全日本学生テニス選手権大会」に駒を進めました。



### 高等部

## サッカー部が 54年ぶりにインターハイ出場

6月6日(日)、「令和3年度全国高等学校総合体育大会」のサッカー競技兵庫県予選の決勝が行われ、関西学院高等部が54年ぶりに優勝しました。報徳学園高等学校との決勝戦は、互いの集中力の高い守備の前に点が入らず、試合終了間際に1点をもぎ取る好ゲームとなりました。

8月に福井県で行われたインターハイでは2回戦で敗れたものの、手に汗握る接戦を繰り広げました。



### 中学部

## 関西中学アメリカンフットボール選手権 タッチフットボール部が西地区で全勝

「第19回関西中学アメリカンフットボール選手権」は東西地区に分かれての開催となりました。西地区に出場した関西学院中学部のタッチフットボール部は、7月4日(日)に池田ワイルドボアーズと、18日(日)に啓明学院中学校と対戦。両試合とも相手チームに点を与えず勝利し、全勝で大会を終えました。



### 千里国際中等部・高等部(SIS)

## 在フランス日本国大使館の参事官に オンラインでインタビュー

関西学院千里国際中等部・高等部(SIS)では、高等部の3年間、授業の中で個人の興味関心に応じた探究活動を行います。2年次は8つのグループに分かれて活動。そのうちの一つ、「SDGs」のチームは、本来は東京都などに現地調査に行く予定でしたが、緊急事態宣言の発令により、急ぎょオンラインでのインタビューと大阪府内での現地調査に切り替え、探究を進めています。

その一環として、6月22日(火)には、外務省在フランス日本国大使館の木戸大介ロベルト参事官にオンラインでインタビュー。同校が外務省の事業である「高校講座」の対象校に選ばれたことにより実現しました。生徒からは「フランス政府のSDGsに対する取り組みにはどのようなものがあるか」「フランスにおける女性の社会進出はどのようなものであるか」といった質問が出され、木戸参事官は一つ一つ丁寧に対応。非常に充実した時間となりました。



### KGグルメ

## Robin Hood's(西宮上ヶ原キャンパス)

### 唐揚弁当

**ポ**リューム満点のメニューが並び、体育会の学生たちにも利用者が多いお店の人気弁当。ごろりと大きな唐揚げは存在感抜群です。食後はフィルムをはがして容器を返却すれば10円キャッシュバックと、環境と財布に優しいのも魅力。テイクアウト430円、イートイン438円(いずれも税込)。



### 初等部

## 体育祭の代替行事として 学年ごとの競技会を実施

関西学院初等部は体育祭の代替行事として、学年ごとの競技会を6月7日(月)、8日(火)に開催しました。昨年度は実施できなかったため児童たちの期待は大きく、休み時間や体育の時間に練習や話し合いを重ねてきました。2日目に行われた3年生以上の選抜リレーはZoomで各教室にライブ配信され、教室の子どもたちはスクリーンに映る選抜メンバーの走る姿に応援の拍手を送りました。



大学

### マルティン・エバーツ・ドイツ総領事が来校 「国連・外交コース」の公開授業で講義

6月16日(水)、ドイツ連邦共和国大阪・神戸総領事のマルティン・エバーツ氏を西宮上ヶ原キャンパスに迎え、大学院副専攻「国連・外交コース」オンラインセミナーを開催しました。神余隆博・国連・外交統括センター長が担当する国連・外交コースの科目“Seminar in Diplomacy, Peace and Security”の公開授業として実施。同コース履修生や学部生ら28人が聴講しました。

エバーツ総領事はインド太平洋政策とそれに連なる国際問題について講義。参考文献として、近年の多国間交渉の実際に基づいて編さんされた「インド太平洋ガイドライン」「多国間交渉白書」を紹介し、「ドイツと日本の緊密な国際協力は多国間交渉における課題解決に不可欠」と強調しました。最後に神余センター長が「関西学院大学は皆が平等に意見交換できる土壌がある。エバーツ総領事との機会を共有できたことに心から感謝する」と謝辞を述べました。



大学

### 上智大学と合同で公開シンポジウム 「オンライン留学を語ろう!」を開催

6月20日(日)、教育連携協定を締結している上智大学と合同で公開シンポジウム「オンライン留学を語ろう!～学生とともに考える、オンライン国際教育の可能性～」をオンラインで実施。一般の視聴者も含め380人が参加しました。

オンライン留学を昨年からの積極的に展開する両大学において、実際に留学した学生各2人が体験談を披露。その後、上智大学グローバル教育センター長を務める出口真紀子教授のファシリテートの下、ゲストに国際教育研究の第一人者である太田浩・一橋大学教授を迎えてパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは視聴者からの「オンラインだからこそ学べたことは?」「参加前後でオンライン留学へのイメージは変化したか?」といった質問に学生が対応。生の声を基にオンライン留学を見直し、さらに学生目線でポストコロナを見据えた国際教育の在り方を検討する時間となりました。



OB・OG情報

### 多田修平選手が陸上日本選手権初優勝 東京五輪に出場

陸上競技の多田修平選手(2019年法学部卒)が6月25日(金)、大阪市で行われた「第105回日本陸上競技選手権大会」に出場。男子100mで並み居る強豪を抑え、初優勝を果たしました。決勝で6レーンに登場した多田選手は得意のスタートダッシュで飛び出し、そのままトップでフィニッシュ。日本選手権初優勝とともに初めての五輪切符も手にしました。



OB・OG情報

### 大相撲・宇良関に 関西学院大学学長賞を授与

7月の大相撲名古屋場所で21場所ぶりに幕内復帰した宇良関(宇良和輝さん、2015年教育学部卒)に学長賞を贈りました。宇良関は相撲部出身で、大学卒業後に角界入りし、木瀬部屋に所属。2017年春場所で新入幕を果たしましたが、その後2度の大けがに見舞われ、一時は序二段まで番付を落しました。しかし、不屈の精神でこのたび幕内に復帰し、見事勝ち越しました。

宇良関のコメント

「学長賞を授与いただき、大変光栄に存じます。このたび、おかげさまで幕内に復帰することができ、場所に向けてのさらなる励みとなりました。頂いたご支援を力に変え、私からも相撲を通じてたくさんの方に元気や勇気を与えられるよう、一日一番を全力で取り組みたいと思います」

大学

「THE Awards Asia 2021」の  
「THE DATAPOINTS IMPROVED PERFORMANCE AWARD」最終選考候補に

英国Times Higher Education (THE)が6月に発表したアジア大学ランキング2021において、関西学院大学は前年の「401+」から「351-400」にランクアップ。同時に発表された「THE Awards Asia 2021」では、「THE DATAPOINTS IMPROVED PERFORMANCE AWARD」の最終選考にノミネートされました。

これはランキングのデータを用い、特定の指標に対して近年最もパフォーマンスが向上した教育機関が評価されるもの。「Citations (論文等の引用数)」のスコアが13.4から29.5と大幅に向上したことが認められたと推測されます。関西学院大学のほか7機関がノミネートされており、日本の大学では関西医科大学も候補者リストに名を連ねています。各カテゴリーの大賞は12月に発表されます。



大学

国際学部卒業生らによる「私たちはこう生きる」  
電子書籍Kindleで公開

国際学部の卒業生ら有志がこれからの生き方をまとめた短文集「私たちはこう生きる」が、Amazonの電子書籍Kindleで公開されました。教育学者で人生哲学を研究する伊都猛さんが学生に向けた短文メッセージに対して、關谷武司・国際学部教授のゼミ生たちが自身の経験や葛藤などを赤裸々につづったもので、今春卒業した学生を中心に10人の共著となっています。

少しでも自分たちの思いが伝わる形にしたいと、文章は背景を説明するコラムを除いて全て手書きにし、「文字の印象によってメッセージの受け取られ方が変わってくる」と、使用するペンにまでこだわりました。「大学生だけでなく、受験勉強をしている高校生にも読んでほしい」と卒業生たち。今後は書籍化も目指しています。本文161頁。Kindle版の購読料は250円(税込)。



読者アンケート  
&  
プレゼント

Present



Question  
naire

アンケートの回答は  
こちら



関学ジャーナルのアンケートにご協力ください。ご協力いただいた方の中から抽選で3名様に「KGオリジナル今治タオル」(ブルー、イエローいずれか1枚)をプレゼントします。右記QRコードからアンケートにお答えください。締め切りは2021年11月17日(水)。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

※お寄せいただいた個人情報は、プレゼントの発送以外では利用いたしません。

# 数字でみる関学

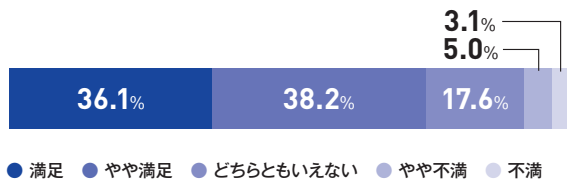
関西学院大学は2020年12月に「学生生活アンケート」を実施しました。調査結果を基に、学生生活の実態、建学の精神等への理解度などを紹介します。

## 学生生活の実態と満足度

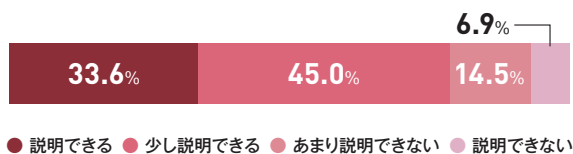
※回答数1,562人(1年生427人、2年生396人、3年生292人、4年生403人、不明44人)

### 建学の精神の浸透度や大学への満足度

Q 関西学院大学に在籍していることについて。



Q スクールモットー“Mastery for Service”の意味を説明できますか。



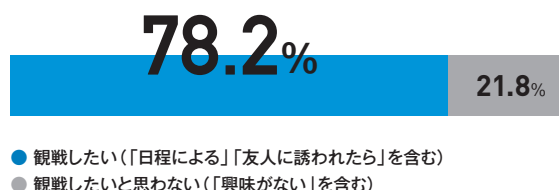
Q 大学の理念、建学の精神について、どれくらい理解していますか。



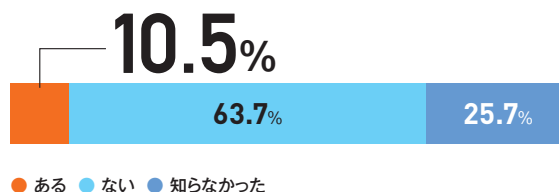
大半がスクールモットーや建学の精神を把握する一方、在籍していることへの不満は約8%と少なく、多くの学生が充実した大学生活を送っているようです。施設・設備に関しては、Wi-Fiなどの通信環境や個人・グループでのワークスペースに改善を求める声が多く、全体的に修学意欲の高さがうかがえます。

### 体育会の公式戦等の試合観戦について

Q 体育会の試合を観戦したいと思いますか。



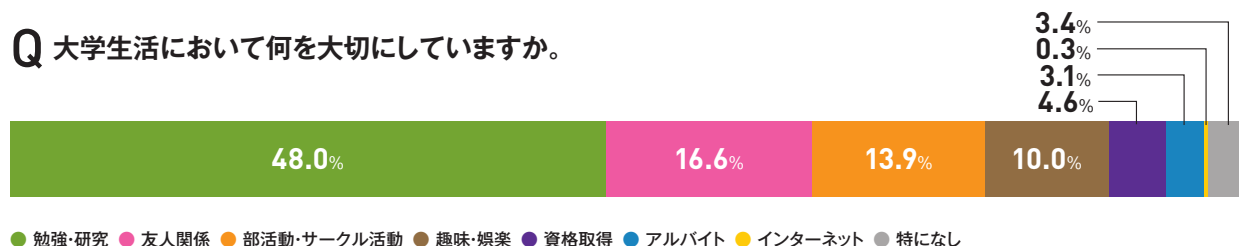
Q 関西学院大学と関西大学の体育会各部の全試合で勝敗を競う「総合関関戦」を試合会場で応援したことがありますか。



体育会の試合に興味関心を持つ学生は多いものの、例えば「総合関関戦」を実際に試合会場に行って応援したことがある人は約1割と少なく、その理由は、アメリカンフットボールやラグビーのルールが分からない人が8割を超えるなど競技ルールを知らないことにもありそうです。今号で特集したKGADは、こういった学生をも巻き込んで大学スポーツを盛り上げたいとの思いから立ち上がりました。これからの活動に期待がかかります。

### 大学生活で大切にしているもの

Q 大学生活において何を大切にしていますか。







## 自分の可能性を信じカナダのプロフットボールリーグで戦う毎日



旧市街に立つモントリオール・ノートルダム大聖堂



チームでの練習風景

在学中はアメリカカンフットボールに情熱を注ぎ、4年生の年には主将としてファイターズを率い、大学日本一を成し遂げました。卒業後は富士通株式会社に入社。先輩に誘われて社内フットボールチーム「富士通フロンティアーズ」に所属したものの2年ほどは思うような結果が出ず、正直、フットボール人生に区切りをつけて仕事に専念しようかと悩んだこともありましたが、しかしある時、自分の全てはフットボールによつて培われたものだと思いき、後悔しないよう改めてフットボールと対峙する覚悟を決めました。すると、2019年のシーズンからは結果も付いてきました。

今年の4月、カナダを拠点とするプロフットボールリーグが外国人選手を対象にグローバルドラフトを実施。モントリオールアルエツツから指名を受けました。もともと「世界市民」として活躍したいという希望があり、それがフットボールでかなうならこれ以上の幸せはないと、7月、チームの本拠地があるモントリオールに渡りました。まずは選手登録枠入りを目指し、日本人にもこれだけできる世界に知らしめたい。そしていずれは米国の世界最高峰リーグに挑戦したいと考えています。

大学時代、ファイターズの監督やコーチに教えられたことが「自責」です。全ての責任は自分にあるという意味で、常にその考え方を心掛けています。どんな結果でも周りのせいにするのではなく、全ては自分に起因すると受け止めて前に向かう。これからも「自責」の精神で邁進します。

学生の皆さんには、自分の可能性を信じてほしいですね。一時はフットボールを辞めようと思っていた私が、カナダのプロリーグで戦っています。人生、何が起きるか分かりません。どんな時にも後悔しない道を選んで進めば、いつか望んだ所にとどり着けます。自分を信じ、頑張ってください。

## 協定校紹介

### マギル大学 McGill University

マギル大学は、ケベック州モントリオールにある1821年に創立されたカナダ最古の大学で今年200周年を迎えます。フットボール、ホッケー、バスケットボールの発祥の地とされており、1874年に世界で初めてのフットボールの試合がマギル大学とハーバード大学の間で実施されたとされています。

総学生数4万人のうち3割以上が留学生で、世界に250以上の協定校を有し、国際化にも積極的です。また、高水準の学術研究と教育システムを維持するために設立された北米トップクラスの研究大学の組織、アメリカ大学協会の一員でもあり、世界各地のその地域を代表する研究型大学27校から構成される国際コンソーシアムUniversitas 21の創立メンバーでもあります。著名な卒業生の中には、12人のノーベル賞受賞者やローズ奨学生140人以上が含まれます。

Times Higher Education (THE) 世界大学ランキング2021では40位、QS世界大学ランキング2022では27位にランクイン。

関西学院大学とは1996年に包括協定と学生交換協定を締結し、活発な国際交流が25年続いています。



McGill University Communications & External Relations



大学図書館Webサイトでは、開館日・開館時間、図書館情報の確認やOPAC(蔵書検索)、データベースなどの情報検索ツールを使うことができます。

大学図書館の旬な情報をお届け

Libraring

各キャンパスの図書館の特集コーナー・展示企画を見よう!



各キャンパスの図書館では、さまざまなテーマで特集コーナーを設け、展示企画を実施しています。図書館にお越しの際には、ぜひご覧ください。  
※展示テーマは変更になることがあります。

西宮上ヶ原キャンパス大学図書館

1階中央階段付近に特集コーナーを設け、エントランスホールでは展示企画を実施しています。

◀特集コーナー▶    ◀ミニ特集コーナー▶  
8月～ 「AI」            9月 「スポーツ」

◀展示企画▶  
7～9月 「大学図書館の図書分類法を知ろう」  
10～12月 「キリスト教に親しむ  
～建築を通して～」

西宮聖和キャンパス図書館

3階入館ゲート付近において、ほぼ毎月テーマを変えて図書を紹介しています。

8～9月 「SDGsな生活」  
10～12月 「ポケットの中から広がる世界  
～秋の文庫本まつり～」  
12月 「小さな幸せを見つけよう」

神戸三田キャンパス図書メディア館

2階入館ゲートの先、エレベーター前のスペースにおいて、毎月テーマに沿った図書を紹介しています。

9月 「AI」  
10月 「秋がきた」  
11月 「読む職業体験」  
12月 「X'masに向けて」



大学図書館Webサイト  
トップページ  
<https://library.kwansei.ac.jp/>



大学図書館Webサイト  
EVENT情報  
<https://library.kwansei.ac.jp/events/>



@KG\_Lib

教 職 員 の 新 刊



**COVID-19各国の政策と市民ボランティア**  
イタリア・アメリカ・台湾・ニュージーランド  
齊藤容子 災害復興制度研究所准教授 著  
関西学院大学出版会

新型コロナウイルス感染症がまん延している世界において、どのような対策がとられているのでしょうか。世界各地で行われたロックダウンや推奨された「ステイホーム」。一人家にいることの不安は誰もが感じたのではないのでしょうか。多くのボランティアが各国で支援のために活動をしていました。物理的なディスタンスはとも、心理的なディスタンスを失わないために世界の事例から学びたいと思います。



**ゼロからできる自治体の財政分析**  
稲沢克祐 経営戦略研究科教授 著  
学陽書房



**経済学で考える社会保障制度 (第2版)**  
安岡匡也 経済学部教授 著  
中央経済社



**中小企業金融と地域経済**  
兵庫県150年の地域金融  
佐竹隆幸 経営戦略研究科教授(執筆時) 編著  
田中教 経済学部教授 編著  
同友館



**D・L・プロッホをめぐる旅**  
亡命ユダヤ人美術家と戦争の時代  
大橋毅彦 文学部教授 著  
春陽堂書店



**日本の法人フランチャイジー**  
消費経済の知られざる担い手  
川端基夫 商学部教授 著  
新評論



**建築家として生きる**  
職業としての建築家の社会学  
松村淳 社会学部准教授 著  
晃洋書房



**「定年後知的格差」時代の勉強法**  
人生100年。大学で学び、講師で稼ぐ  
櫻田大造 国際学部教授 著  
中央公論新社



**心の垣根を越えて**  
テゼのプラザー・ロジェ：その生涯とビジョン  
打植啓史 社会学部教授 監訳  
村瀬義史 総合政策学部准教授 監訳  
一妻出版社

※本データは、これらの書籍が刊行された当時のものです。※これらの図書の多くは、大学図書館で貸し出しています。

## 聖書に聞く



院長 舟木 讓

愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。  
愛は自慢せず、高ぶらない。  
礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。  
不義を喜ばず、真実を喜ぶ。  
すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

コリントの信徒への手紙 13章4-7節

### な

さまざまな意見があつた中、東京でのオリンピック・パラリンピックが開催され、スポーツというものの本質に触れる機会が与えられました。それぞれの技術向上に日々修練してこられた方々が、アスリートとして互いに競い合い、「勝者」を目指す姿の背後に、これまで積み重ねてこられた誠実で真摯な努力も浮かび上がり、多くの感動を覚えることができたのではないのでしょうか。そして、試合後の選手へのインタビューの答えに共通していたのは、その歩みを支えてこられた家族や仲間、表舞台には出てこないスタッフ、関係者の方々への尽きない感謝の思いと対戦相手への敬意でした。

今回の聖句は「愛」が主題となっていますが、その具体的な形は、アスリートが自らの限界を越えようとして努力される中で到達された生き方のように感じるのではないのでしょうか。他者の才能を「ねたま」ことなく、自らを「信じ」努力する。そして「勝者」となっても「高ぶる」ことなく、「礼」を失わず、また「敗者」となっても「恨みを抱かない」姿勢。こうした人生态度はスポーツをする人にとどまらず、一人ひとりに与えられた人生に向き合い、それを真の意味で「豊かなもの」とするために必要不可欠なものです。

日々、多くの人々の支えの中で生かされていることを意識し、感謝して、それに応えて歩むことが「愛」の実践であるということ、アスリートの方々の姿勢から学び、真の「愛」に満ちた世界を共に創造してまいりましょう。

## 編集後記

東京五輪、スポーツの秋！ということで、今回は「スポーツ」をテーマに学生の活躍や、教員の研究をお届けしました。体育会学生だけでなく、「みる」「ささえる」ことで関学全体がもっと盛り上げれば最高ですね。ぜひ周りの皆さんにも今回の関学ジャーナルをオススメください。(松)

※2021年度は、関学ジャーナルの発行を年3回とさせていただきます。  
273号は1月ごろを予定しています。



### 関西学院大学 Instagram

関西学院大学のキャンパスや授業風景、学生の活動の様子など、さまざまな瞬間を写真や動画で紹介！友達が出ているかも。



アカウント名 / kwanseigakuinuniversity



## Kwansei Grand Challenge 2039

関西学院は、創立150周年を迎える2039年を見据え、関西学院のありたい姿・あるべき姿を示した「超長期ビジョン」と、それを実現するための前半10年間(2018-2027年)の方向性を示した「長期戦略」からなる将来構想「Kwansei Grand Challenge 2039」を2018年に策定しました。現在は、これに基づく「中期総合経営計画」で、さまざまな施策が進んでいます。詳細は下記Webサイトをご覧ください。

<https://kgc2039.jp/>

# 地球が輝き続ける、 まちづくりを。

私たちは「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」

という経営理念のもと、手掛ける建築・インフラの

ひとつひとつを丹精込めてつくってきました。

これからも豊かで安心・安全な「まちづくり」を通して、

サステナブル社会を実現し、地球の未来につないでいきます。

想いをかたちに 未来へつなぐ  
 **TAKENAKA**

株式会社 竹中工務店 <https://www.takenaka.co.jp/>

本社：〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-13 Tel:06-6252-1201  
東京本店：〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1 Tel:03-6810-5000

